

# S I D R

## 滋賀県感染症情報

SHIGA Infectious Diseases Report

《週報》

第 4 巻第 19 号

第 19 週( 5 月 3 日 ~ 5 月 9 日)

発行年月日:平成16年(2004年) 5月 14日

発行 行 :滋賀県立衛生環境センター内

滋賀県感染症情報センター

電話 077-537-3051 FAX 077-534-3936

### 1) 全数報告の感染症(1類~5類)

感染症類型	疾患名	報告数 (19週)	累積報告数		平成15年報告数	
			滋賀 (19週)	全国 (19週)	滋賀	全国 <sup>(*)</sup>
1 類 感染症	報告なし	0	0	0	0	0
2 類 感染症	細菌性赤痢	0	4	142	7	459
	腸チフス	0	1	23	0	60
	パラチフス	0	0	21	0	38
3 類 感染症	腸管出血性大腸菌感染症	1	1	282	8	2635
4 類 感染症	E型肝炎 <sup>(*)</sup>	0	1	6		
	オウム病	0	0	13	1	44
	ツツガムシ病	0	0	62	2	380
	レジオネラ症	0	0	32	1	143
5 類 感染症	アメーバ赤痢	1	4	198	3	504
	ウイルス性肝炎	0	1	99	3	634
	クロイツフェルト・ヤコブ病	0	0	59	3	115
	ジアルジア症	0	1	25	0	99
	後天性免疫不全症候群	1	3	336	8	949
	梅毒	0	2	157	2	493
	破傷風	0	0	19	1	69
	急性脳炎	0	0	20	0	98

\*1:平成15年報告数の全国報告数は、滋賀県で報告された疾患を対象としています。

\*2: " 感染症法の改正前のためE型肝炎のみの集計はされていません。

### 2) 定点把握の対象となる5類感染症

疾患名	定点当たり患者数(県・保健所管内別)								前週との比較(定点当たり患者数)
	県	大津	草津	水口	八日市	彦根	長浜	今津	
インフルエンザ	0	0	0	0	0	0	0	0	
RSウイルス感染症	0	0	0	0	0	0	0	0	
咽頭結膜熱	0.18	0.71	0	0	0	0	0	0.50	
A群溶連菌咽頭炎	0.61	0.86	0.50	0.50	1.20	0	0.40	0.50	
感染性胃腸炎	3.67	7.86	5.00	2.75	1.40	1.25	0.40	5.50	
水痘	1.39	1.57	1.00	1.00	0.60	2.75	1.80	1.00	
手足口病	0	0	0	0	0	0	0	0	
伝染性紅斑	0	0	0	0	0	0	0	0	
突発性発疹	0.24	0.29	0.17	0	0.40	0.25	0.20	0.50	
百日咳	0	0	0	0	0	0	0	0	
風疹	0	0	0	0	0	0	0	0	
ヘルパンギーナ	0.27	1.14	0	0	0	0	0	0.50	
麻疹	0	0	0	0	0	0	0	0	
流行性耳下腺炎	0.42	0.43	0.17	1.75	0	0.25	0.40	0	
急性出血性結膜炎	0	0	0	0	0	0	0	0	
流行性角結膜炎	0.43	0	0	3	0	0	0	0	
細菌性髄膜炎	0	0	0	0	0	0	0	0	
無菌性髄膜炎	0	0	0	0	0	0	0	0	
マイコプラズマ肺炎	0.14	0	0	0	0	0	1.00	0	
クラミジア肺炎	0	0	0	0	0	0	0	0	
成人麻疹	0	0	0	0	0	0	0	0	

全国集計などの詳細な集計結果は、国立感染症研究所感染症情報センターのホームページ(<http://idsc.nih.gov/jp/index-j.html>)において公表されています。

0 2 4 6  
定点当たり患者数

### 3)今週のトピックス

#### インフルエンザの発生は終息 滋賀県における全数報告感染症の概要(平成16年第1週～第19週)

定点把握の対象となる5類感染症の発生状況は、休業していた定点医療機関が多いため先週(4月26日～5月2日)の報告数よりかなり減少していますが、咽頭結膜熱、突発性発疹、ヘルパンギーナおよび流行性角結膜炎の発生は増加しています。

**インフルエンザ**については、第6週(2月2日～2月8日)の定点当たり患者数 35.5をピークに減少し、第19週(5月2日～5月9日)の定点当たり患者数は0となり終息したと考えられます。

**感染性胃腸炎**については、先週に引き続き減少し、第11週(3月8日～3月14日)の定点当たり患者数 10.52をピークに減少傾向を示していますが、今津保健所管内においては2週続いて増えています。

**流行性耳下腺炎**については、先週の定点当たり患者数 0.64より減少し0.42となっていますが、水口保健所管内においては1.75と多くなっています。

#### 定点当たり患者数:

感染症発生動向調査事業に係る報告のために、滋賀県が指定した「指定届出機関」を定点医療機関(定点)といい、一週間を単位として一つの定点から何人の患者が報告されているかを示したものです(患者報告数/定点医療機関数)。例えば、一つの疾患(インフルエンザ等)について、一週間に53カ所の定点から総数53人の報告があれば、定点当たり患者数は1.00となります。\*疾患により定点数は異なります。

#### 感染性胃腸炎、流行性耳下腺炎の保健所管内別発生状況(平成16年第19週)

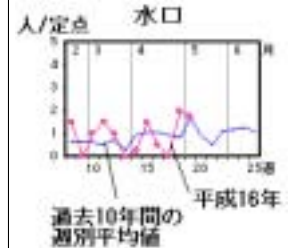
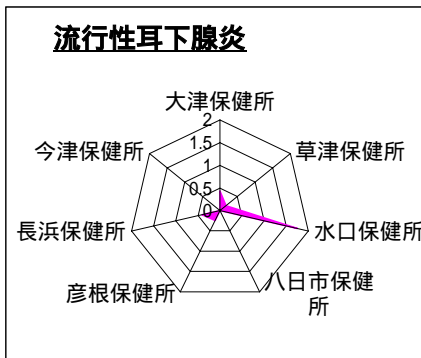
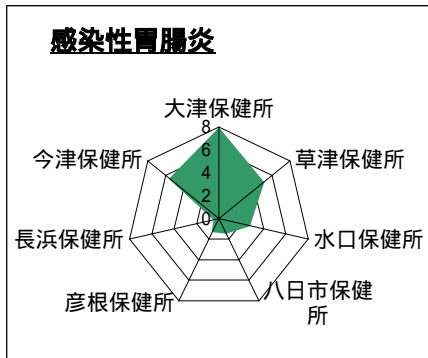


図:流行性耳下腺炎の週別発生状況(水口保健所管内)

感染性胃腸炎の定点当たり患者数は大津、草津および今津保健所管内で多くなっており、今津保健所管内において2週続いて増加しています。また、流行性耳下腺炎の定点当たり患者数は水口保健所管内で多くなっています。水口保健所管内における過去10年間の週別平均値との比較は図のとおりです。他の保健所管内における大きな変化はみられません。

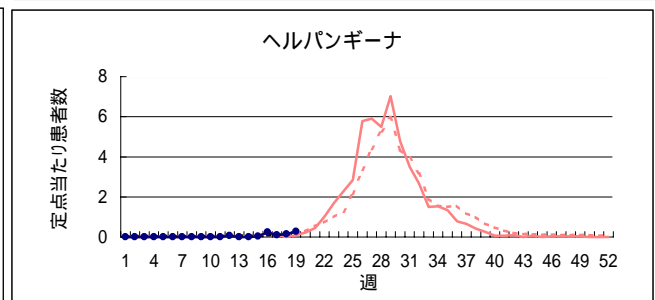
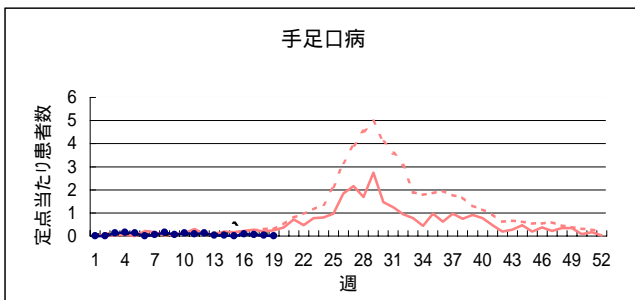
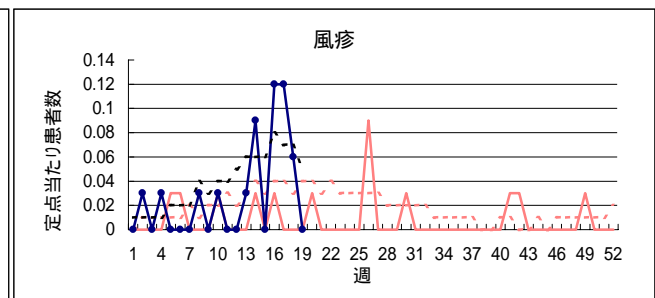
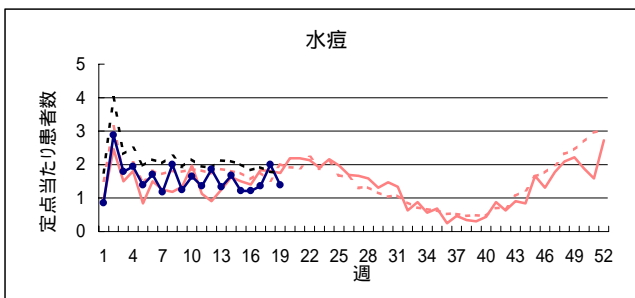
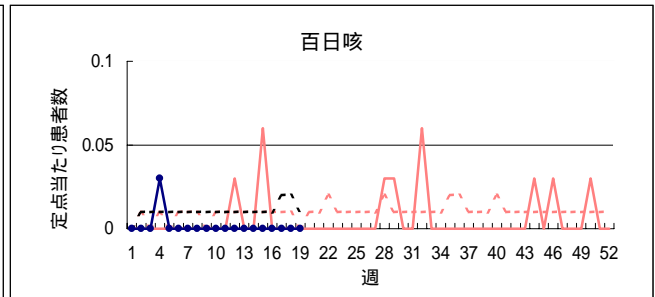
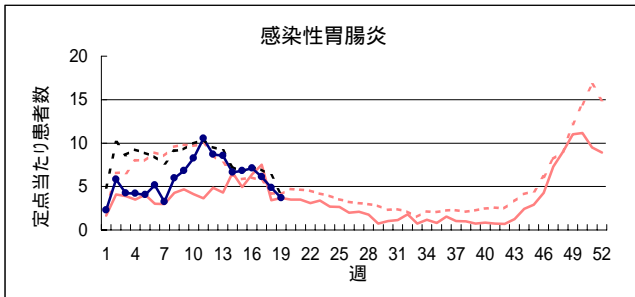
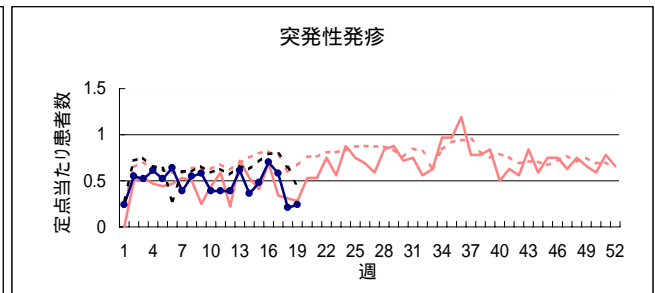
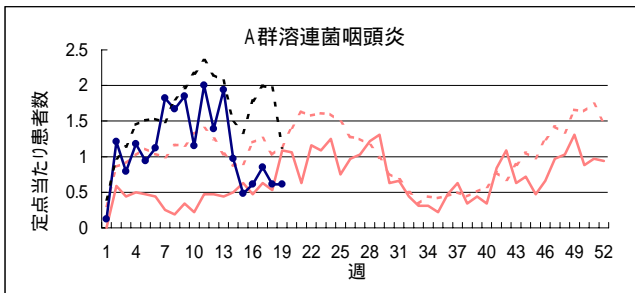
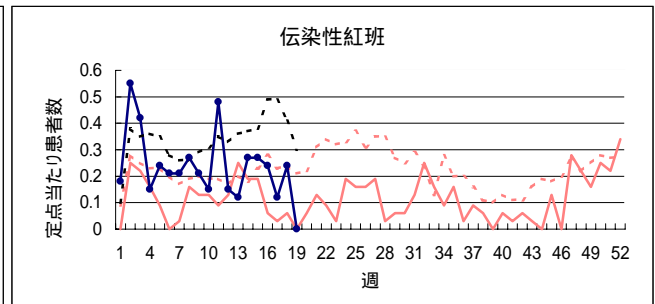
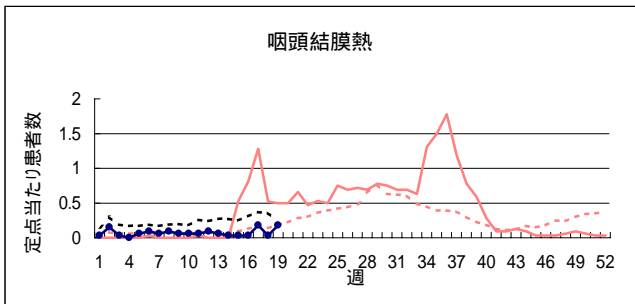
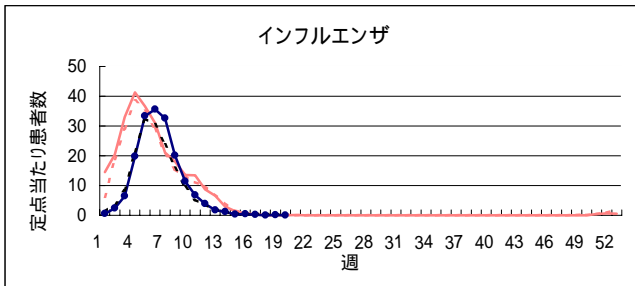
#### 滋賀県における全数報告感染症の概要(平成16年第1週～第19週)

滋賀県内の医療機関において、医師が感染症法で定められている一～四類および五類感染症に該当する患者を診断したとき医師は保健所に届出ることになっています。届出により、滋賀県内で発生している感染症法で定められた一～四類および五類感染症を把握することができます。これを全数報告の感染症といいます。

感染症法:感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律

感染症類型	疾患名	1～14週の累積報告数	15～19週の報告年月日	概要	
一類感染症	報告なし	0			
二類感染症	細菌性赤痢	4	報告なし		
	腸チフス	1	報告なし		
三類感染症	腸管出血性大腸菌感染症	0	H16.5.8	血清型:O157 産生毒素型:VT1(-)VT2(+) 推定感染地域:日本国内 推定感染原因・感染経路:不明	
四類感染症	E型肝炎	0	H16.4.12	推定感染地域:中国 推定感染源・感染経路:経口感染	
五類感染症	アメーバ赤痢	3	H16.5.6	推定感染地域:タイまたはグアム 推定感染源・感染経路:不明	
	ウイルス性肝炎	0	H16.4.5	B型肝炎 推定感染地域:日本国内 推定感染経路:同性間性的接触	
	後天性免疫不全症候群		1	H16.4.12	無症候性キャリア 推定感染地域:日本国内 推定感染経路:その他
				H16.5.6	無症候性キャリア 推定感染地域:不明 推定感染経路:異性間性的接触
	ジアルジア症	0	H16.4.20	推定感染地域:不明 推定感染源・感染経路:経口感染	
梅毒	2	報告なし			

# 疾病別定点当たり患者数(平成16年第1週～第19週、H15.12.29～H16.5.9)



# 疾病別定点当たり患者数(平成16年第1週～第19週、H15.12.29～H16.5.9)

H15 〔 滋賀 ———— 全国 ..... 〕  
 H16 〔 滋賀 ●——● 全国 ..... 〕

